

謹賀新年

イタリアで始まったスローシティだが、ドイツで初めて加盟したというヘルスブルックと、二番目というバルトキルヒを訪れた。それぞれ人口は、一万二千人と二万人。前者は、ニュールンベルグの近く、最近有名になったエアランゲンにも近い。後者はヴオーバンなどで有名になったフライブルグ近くの小都市で、どちらもそれぞれ列車で二十分ほどの無人駅だ。バルトキルヒは、すでに環境に配慮したまちづくりで定評があったが、一九九八年に市長の呼びかけのもと、市民参加による「バルトキルヒの将来の理想像（ビジョン）づくり」の作業に着手、二年間かけて語り合い、さらに二年をかけて、共有したビジョンに近づくための街づくりとして、スローシティへの参加となったと聞く。スローシティ運動は、「生活の豊かさ」という、ポジティブでみんなが共感できるものから出発し、よりたくさんの方々の市民をまちづくり事業に取り込んでいくのに最適な「道具」だとされる。いずれにしても、どちらもスケール感に優れた心地良い街で、車道を広場として市民に開放し、老若男女が街を歩き、カフェで談笑している。小さな街の良さを日本でも……と思わずにはいられない。

平成三十年 元旦

戌

〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2018年用

イタリアで始まったスローシティだが、ドイツで初めて加盟したというヘルスブルックと、二番目というバルトキルヒを訪れた。それぞれ人口は、一万二千人と二万人。前者は、ニュールンベルグの近く、最近有名になったエアランゲンにも近い。後者はヴオーバンなどで有名になったフライブルグ近くの小都市で、どちらもそれぞれ列車で二十分ほどの無人駅だ。バルトキルヒは、すでに環境に配慮したまちづくりで定評があったが、一九九八年に市長の呼びかけのもと、市民参加による「バルトキルヒの将来の理想像（ビジョン）づくり」の作業に着手、二年間かけて語り合い、さらに二年をかけて、共有したビジョンに近づくための街づくりとして、スローシティへの参加となったと聞く。スローシティ運動は、「生活の豊かさ」という、ポジティブでみんなが共感できるものから出発し、よりたくさんの方々の市民をまちづくり事業に取り込んでいくのに最適な「道具」だとされる。

いずれにしても、どちらもスケール感に優れた心地良い街で、車道を広場として市民に開放し、老若男女が街を歩き、カフェで談笑している。小さな街の良さを日本でも……と思わずにはいられない。

謹賀新年

「このところ、時間のある限り、イタリアやドイツの小都市を巡り歩いている。スローシティやクリエイティブシティといったところだ。私の持論である、「場所の声を聞く」や「小さく混ぜて解く」が当たり前のように顕現しているところが多い。そして、美味しくて美しい。一日や一週間の時間の中で、まちの様相が刻々と変化する。静かな時は静か、にぎやかな時はにぎやかだ。そして、大規模な様相が少なく、気持ちが良い。観光も小さくて住民と共生している。春に尋ねたオルビエート。オルビエート・クラスコは美味しい白。丘の上のとても静かな町で、谷を挟んだ向かいからの景色が素晴らしかった。スローフード発祥の地、ブラ。サルシッチャとネツピオーロが旨い。「ワインの魅力というもの」はグラスの中だけでなく、その外に吹く風や周りの景色を感じさせるものでなくてはならない……ワインの存在意義は完璧ではなく未完成にあり、各産地の特色を背景にした多様なワインのあり方、つまり差異を推奨する」(スローフード協会・ジャコモ・モヨリー)

平成二十九年 元旦



〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2017年

「このところ、時間のある限り、イタリアやドイツの小都市を巡り歩いている。スローシティやクリエイティブシティといったところだ。私の持論である、「場所の声を聞く」や「小さく混ぜて解く」が当たり前のように顕現しているところが多い。そして、美味しく美しい。一日や一週間の時間の中で、まちの様相が刻々と変化する。静かな時は静か、にぎやかな時はにぎやかだ。そして、大規模な様相が少なく、観光も小さくて住民と共生している。春に尋ねたオルビエート。オルビエート・クラスコは美味しい白。丘の上のとても静かな町で、谷を挟んだ向かいからの景色が素晴らしかった。スローフード発祥の地、ブラ。サルシッチャとネツピオーロが旨い。「ワインの魅力というもの」はグラスの中だけでなく、その外に吹く風や周りの景色を感じさせるものでなくてはならない」「ワインの存在意義は完璧ではなく未完成にあり、各産地の特色を背景にした多様なワインのあり方、つまり差異を推奨する」

(スローフード協会・ジャコモ・モヨリー)

謹賀新年

『住宅とマチの関係の貧困化が言われるようになって久しい。……あるべき住宅とマチの関係について語ろうとする意欲も失せている。』日本建築学会に「住宅と都市の間の空間デザイン小委員会」という委員会があつて、その名前が格別気に入っているのだが、主査を務める杉山茂一大阪市立大学教授の言である。……これは、新建築住宅特集(2007)「カンボジア・カンボンブロック村調査を通して見えてきた住宅とマチの関係」の掲載に際して書いた文章である。山田脩二さんの写真と学生たちが実測した図面は、その後、東京で展覧会も開催し、好評を博した。そして、一年の中で水上都市と空中都市の二つの姿を呈するこの村を、多木浩二の「生きられた家」から想起した「棲む」という言葉と、水中でも陸上でも生きる「両生類」にひっかけて『両棲集落』と称することにした。「ニッポンの未来の鍵はカンボジアにあつた?『両棲集落』を旅マガジンとして発行する出版プロジェクト」当時、学生調査団の団長を務めた卒業生の企画だ。乞うご期待!ところで、二〇〇〇年六月から二〇〇八年十一月まで、四百四十一回にわたって、事務所のHP上で続けた『Mr. Egawaの週間NEWS』。二〇一四年一月から、私自身のホームページとして再開している。前回と違って字数も更新も『気まぐれ日記』が実態であるが、同時に毎回三週間分を再録している過去の記事は、結構面白いかもしれない。

平成二十八年 元旦 申

〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 079712315812 江川直樹

2016年

『「住宅とマチの関係の貧困化が言われるようになって久しい。……あるべき住宅とマチの関係について語ろうとする意欲も失せている。」日本建築学会に「住宅と都市の間の空間デザイン小委員会」という委員会があつて、その名前が格別気に入っているのだが、主査を務める杉山茂一大阪市立大学教授の言である。……』これは、新建築住宅特集(2007)「カンボジア・カンボンブロック村調査を通して見えてきた住宅とマチの関係」の掲載に際して書いた文章である。山田脩二さんの写真と学生たちが実測した図面は、その後、東京で展覧会も開催し、好評を博した。そして、一年の中で水上都市と空中都市の二つの姿を呈するこの村を、多木浩二の「生きられた家」から想起した「棲む」という言葉と、水中でも陸上でも生きる「両生類」にひっかけて『両棲集落』と称することにした。

「ニッポンの未来の鍵はカンボジアにあつた?『両棲集落』を旅マガジンとして発行する出版プロジェクト」当時、学生調査団の団長を務めた卒業生の企画だ。乞うご期待!ところで、二〇〇〇年六月から二〇〇八年十一月まで、四百四十一回にわたって、事務所のHP上で続けた『Mr. Egawaの週間NEWS』。二〇一四年一月から、私自身のホームページとして再開している。前回と違って字数も更新も『気まぐれ日記』が実態であるが、同時に毎回三週間分を再録している過去の記事は、結構面白いかもしれない。

ビニールが禁止のゴミのないまち、キガリ（ルワンダ）から帰国の翌日、成田経由でピッツバークへ。トロントからのボンバルディアは夜中に着いて、二八ㄨのバスでオーランドにたどり着くのは深夜。今回は、鉄の町から医療・健康の町として見事な再生を遂げたと言われるピッツバークの現状を、都市デザインの面から確認すること。丘陵地に建つピッツバーク大学医療センターの建物は古い建物でもそれぞれが分節され、スロープ造成のランドスケープも美しく、中は静かで、空に開いて開放的な空中廊下にはレストスペースがたくさん用意され、廊下の突当りも必ず開放的で、落ち着いた病院の佇まいだ。息苦しさがない。うまく駐車場を低層部に内包し、街角に表出しない工夫も見られる。人口六七万人の鉄の町から三〇万人の医療・教育の町へと変身を遂げ、全米で住みたい町のNO.1に選ばれた町だが、オーランドやまちなかの整備されたところは美しいものの、川向こうのサウスサイドの道路沿いやダウンタウンまでの途中、周辺には放置された空き家群も多く、さすがにその人口の減少の跡が残る。帰路途中のトロントでは早朝から霧に煙るウォーターフロントへ。かすんだクリスタルタワーは美しいものの、足元がつまらない。前夜行ったチャイナタウンのにぎやかな建ち並びこそ街中の楽しさだ。世界最大の多国籍都市の未来がクリスタルシティではがっかりではないか。

2014年

喪中につき新年のご挨拶を失礼させていただきます。

母 幸子が三月二十七日に八十六歳で永眠いたしました。
本年中に賜りましたご厚情を深謝いたしますとともに
明年も変わらぬご厚誼のほどお願い申し上げます。

平成二十五年一二月

2013年

この巨大な建物は、谷の中央に奇妙にもそこだけが隆起している一連の小丘の一つの頂の上にある。詳しい説明よりも、一枚の絵を見る方がよりよく理解できる。だが、どんなに優れた写真であっても、巨大な建物を土台としていくつかの黄金の屋根を持つ赤い宮殿が空中に建っているポタラ宮の、人を圧する威容は伝えることはできないだろう。

ポタラ山の斜面に段状に雑然とぎっしり建ち並んでいる建物の富があれば、壮麗な妖精の宮殿を建てることもできただろう。しかし、チベットの建築家たちは芸術家ではなかった。彼らは、最高の高価な資材を使って、豪華さと権力を表すのみで、美については考慮しなかった。ところが、金や銀の宝石の野蛮ともいえるこの扱い方が、チベットの宮殿や寺院に独特な特徴を与えていて、それらを取り囲んでいる荒々しい景色によく適合している。この自然と建物の調和が、力強さとなっている。

「パリジェンヌのラサ旅行」 A・ダヴィッド・ネール 1927 より
本にある、90年前の写真のポタラ宮は、前面が裸地の広場で人々の服装も古めかしい。あの昨秋の、車も街灯もないその雄姿から往時を想うのもまた僕たちの旅の楽しみである。

2012年

この村の人々は控えめだが、とても親切だ。「知らない人でも、この景色を愛する人なら誰でも友達になれる」と言ったのは、ル・ヴュー・ボンという郷土料理のレストランを切り盛りするクリスチヌだった。「ここでアルプスの空気を吸って、ルブションチーズの料理を食べ、土地のワイン、アリゴテを飲んでごらんさい。人生、ほかに何が必要？」彼女の言葉は、「どうしてこの厳しい環境に人が住むのか？」という疑問への答えに違いない。

フランスの美しき村 菊間潤吾
より

春から初夏にかけての三ヶ月間のフランス小集落巡りは、一人きりで、すべて公共交通機関を使つての道筋でしたが、想像していたように、いろいろなことを確認する旅でした。それにしても、なぜ、こんなにすべてが美しいのか。翻って日本を思い、苦難の遠い道のりを、次代を担う若者にいかに委ねるかを思いめぐらす旅でもありました。昨秋に刊行の拙著「場所の声を聞く 集まって住むカタチのデザイン」関西大学出版部がいくばくかの議論のたたき台になれば幸甚と思わずにはいられない新年です。

2011年

今日の予定では、村に入り挨拶をすませる予定でした。しかし、昨日の夜の大雨のせいで道がどろどろの沼と化して車での移動ができない状態になり、シエムリアップでもう一泊するはめになりました。おかげでゆっくりしています。こういうトラブルが好きでカンボジアを感じる事のできる瞬間だと思います。バイタクで疾走するカンボジアの風景の中にたえずむ高床式の住居は、建築も新しい地形なのだと語り掛けてきます。話は変わりますが、今日の夕食は犬の肉でした。結構いけました。

横山大樹君からのメールより

昨夏、これまでの実測図や発表原稿などをまとめた『美しい両棲集落 カンポンプロック村の実測調査から』を限定150部発刊した。幸いにも好評だったので増刷せねばなるまい。「建築も新しい地形！」本当にそう思う。そういった建築をつくっていきたい。

謹賀新年

このあたりはアベニン山脈の北麓一帯にひろがる山地です。そのまま山脈を南へ越えると、フィレンツェへ行くことができますが、それにしても、このあたりの景色は美しい。農業や牧畜や林業など、人間の行なう生産の営みと自然環境がまったく対立していない。自然環境と畑や牧草地や里山などの人間の営みが和やかに溶け合って、いうところの「二次的自然」がみごとに広がっています。……もちろん、日本も、美しい二次的自然に恵まれています。たとえば、宮澤賢治が愛した小岩井の農場から岩手山にかけての景色、石川啄木がしきりに懐かしがった川と里山と田畑と町屋とが溶け合った風景……、やがて車は、まわりから頭一つだけ抜け出たような美しい山を登り始めました。壮大な木々の間を抜けると、緩やかな傾斜が見えてきました。その傾斜はすべて丹念に耕された畑でした。

「ボローニャ紀行」井上ひさしより

都市再生の世界的モデルといわれる「ボローニャ」。過去から学ぶべきだとするその精神は、「自然と人間による幸福な合作Ⅱ二次的自然」の延長だと感じた中伊紀行でした。

平成二十二年 元旦

庚

〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-2315812 江川直樹

2010年

このあたりはアベニン山脈の北麓一帯にひろがる山地です。そのまま山脈を南へ越えると、フィレンツェへ行くことができますが、それにしても、このあたりの景色は美しい。農業や牧畜や林業など、人間の行なう生産の営みと自然環境がまったく対立していない。自然環境と畑や牧草地や里山などの人間の営みが和やかに溶け合って、いうところの「二次的自然」がみごとに広がっています。……もちろん、日本も、美しい二次的自然に恵まれています。たとえば、宮澤賢治が愛した小岩井の農場から岩手山にかけての景色、石川啄木がしきりに懐かしがった川と里山と田畑と町屋とが溶け合った風景……。やがて車は、まわりから頭一つだけ抜け出たような美しい山を登り始めました。壮大な木々の間を抜けると、緩やかな傾斜が見えてきましたが、その傾斜はすべて丹念に耕された畑でした。

「ボローニャ紀行」井上ひさし より

都市再生の世界的モデルといわれる「ボローニャ」。過去から学ぶべきだとするその精神は、「自然と人間による幸福な合作Ⅱ二次的自然」の延長だと感じた中伊紀行でした。

謹賀新年

シナンがそこに見たのは、眼もくらむような広さと色彩であった。赤と青。シナンの目の前に、空と海が広がっていた。青い碧空。抜けるような天。その下に、群青のボスボラス海峡がひろがり、そのさらに向こうに遠くマルマラ海までが見えた。ボスボラスとマルマラ海を分けるように、右側から半島が突き出ており、その上に聖ソフィアの丸い屋根が見えていた。なんとという広さであろうか。その広さを際立たせていたのは、ゆるいスロープを描いて下っていく大地の全てが、赤い色彩で埋め尽くされていたのである。一面の花。チューリップであった。赤いチューリップの花が、今出てきたばかりの屋敷の建っている丘を覆っていたのである。

「シナン」夢枕獏より

4月と9月、2度のイスタンブール行。秋は、春に行けなかった、エディルネのセリミエ・ジャミーが目的。バザール、病院、学校、墓地と合体されたジャミーの思想は、ミマール・シナンの建築と都市をつなぐ基本の姿勢。十六世紀の建築家の発想だとは。

平成二十一年 元旦

丑

〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2009年

シナンがそこに見たのは、眼もくらむような広さと色彩であった。赤と青。シナンの目の前に、空と海が広がっていた。青い碧空。抜けるような天。その下に、群青のボスボラス海峡がひろがり、そのさらに向こうに遠くマルマラ海までが見えた。ボスボラスとマルマラ海を分けるように、右側から半島が突き出ており、その上に聖ソフィアの丸い屋根が見えていた。なんとという広さであろうか。その広さを際立たせていたのは、ゆるいスロープを描いて下っていく大地の全てが、赤い色彩で埋め尽くされていたのである。一面の花。チューリップであった。赤いチューリップの花が、今出てきたばかりの屋敷の建っている丘を覆っていたのである。

「シナン」夢枕獏より

4月と9月、2度のイスタンブール行。秋は、春に行けなかった、エディルネのセリミエ・ジャミーが目的。バザール、病院、学校、墓地と合体されたジャミーの思想は、ミマール・シナンの建築と都市をつなぐ基本の姿勢。十六世紀の建築家の発想だとは。

謹賀新年

アパートやビルの屋上はこれらの奉公人たちの住むスペースになっている。六階にあつた私の研究室からみると、まわりは低い建物ばかりなので、この首都のまん中なのにいちめんにインディオたちの世界だ。屋根を熱帯の木の葉でふいたりして、下に住む白人たちの知らない世界を形成している。雲が血の色に染まる時刻には、若者がこちらのビルの屋上で、あちらのビルの屋上の若い娘に大きく手をふって呼びかけている。幾百年の昔にも、やはり夕陽を背景に若者たちや娘たちが、このようにあちらの丘、こちらの丘から呼び交わしていたはずである。今征服者を自認する近代文明の墓標のような四角い丘、直線の谷のすべてをつつみこむ薄暮の底から、地のシルエットたちが立ち上がり呼び交わしていることとおなじに。

「気流の鳴る音」 真木悠介より

郊外にあるバラガンのサテリア・タワーへの車中や、プエブラへの車中から見、斜面にへばりつく住居群が圧巻のメキシコシティでした。帰国後は、CARACASの同様の住居群のDVDを、メキシコを想像しながら、しっかりと見たものでした。

平成二十年 元旦



〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2008年

アパートやビルの屋上はこれらの奉公人たちの住むスペースになっている。六階にあつた私の研究室からみると、まわりは低い建物ばかりなので、この首都のまん中なのにいちめんにインディオたちの世界だ。屋根を熱帯の木の葉でふいたりして、下に住む白人たちの知らない世界を形成している。雲が血の色に染まる時刻には、若者がこちらのビルの屋上で、あちらのビルの屋上の若い娘に大きく手をふって呼びかけている。幾百年の昔にも、やはり夕陽を背景に若者たちや娘たちが、このようにあちらの丘、こちらの丘から呼び交わしていたはずである。今征服者を自認する近代文明の墓標のような四角い丘、直線の谷のすべてをつつみこむ薄暮の底から、地のシルエットたちが立ち上がり呼び交わしていることとおなじに。

「気流の鳴る音」 真木悠介より

郊外にあるバラガンのサテリア・タワーへの車中や、プエブラへの車中から見、斜面にへばりつく住居群が圧巻のメキシコシティでした。帰国後は、CARACASの同様の住居群のDVDを、メキシコを想像しながら、しっかりと見たものでした。

謹賀新年

陽光がさし込むとき、突然街は立ち上る。街の隅々の細い路が、濡れたままで飛び起きる様は、アーチや持出しバルコンなど、住居の部分が鋭く描く瞬間と一致して街を捉える重要な機会なのである。幾度もその演出が繰返されている内に、起伏の少ない霧の中の風景に別の遠近ともの厚みを見出すことになる。それは、性格とは云えないまでも街が横たわっているくつろぎの表情が感じられ、その時を機にして乳白色の街を理解しはじめるのである。……階層を重ねる必要があり、多くの人々が集って住むための仕掛けが複雑であった。それに街をつくる時間的制限も厳しかったであろう。自然発生的でない計画された街は、トウルリとは反対に壊れない構造や街としての精密度を要求されたのである。

「見合う街々」 鈴木恂より

トンレサップ湖浸水域の、丸太を縄で縛る（持続性の高い）アジア集落とつきあう一方で、チステルニノの密度感のある路地集落とを重ね合わせながら、日本の次代の集住環境イメージを頭に描くこの頃です。南伊は涼しかったのに、ローマは異常な暑さでした。

平成十九年 元旦



〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2007年

陽光がさし込むとき、突然街は立ち上る。街の隅々の細い路が、濡れたままで飛び起きる様は、アーチや持出しバルコンなど、住居の部分が鋭く描く瞬間と一致して街を捉える重要な機会なのである。幾度もその演出が繰返されている内に、起伏の少ない霧の中の風景に別の遠近ともの厚みを見出すことになる。それは、性格とは云えないまでも街が横たわっているくつろぎの表情が感じられ、その時を機にして乳白色の街を理解しはじめるのである。……階層を重ねる必要があり、多くの人々が集って住むための仕掛けが複雑であった。それに街をつくる時間的制限も厳しかったであろう。自然発生的でない計画された街は、トウルリとは反対に壊れない構造や街としての精密度を要求されたのである。

「見合う街々」 鈴木恂より

トンレサップ湖浸水域の、丸太を縄で縛る（持続性の高い）アジア集落とつきあう一方で、チステルニノの密度間のある路地集落とを重ね合わせながら、日本の次代の集住環境イメージを頭に描くこの頃です。南伊は涼しかったのに、ローマは異常な暑さでした。

謹賀新年

たとえば、ブータン中ひらひらとたなびいているダルシンがある。経を書いたこの布は風に翻るたびに経を読む効果を持つ。農業者として風を知り抜いたブータンの人たちは、あらゆる風の通り道にダルシンを立てる。思いがけぬ峠脇や河原に布が教えてくれる風の流れ。畠は当然だんだん畠である。傾斜を丹念に水平に刻み込んだ土地を静かに水が流れ、中央に集まって谷になる。家は総て農家だから、正面と入り口を谷に向け、すこし下がった場所に控えとしての仏塔をもつ。

「天と地が支配する世界の感動」宮脇檀より

日本の原風景と称される農村の風景より、民族衣装の人々の姿より、土（版築）と木の立派な農家（民家）より、ゾン（要塞）より、ラカン（仏教寺院）より、ゴンパ（僧院）より、なによりもブータンを感じたのが、緑のなかに翻るダルシンの群れでした。

平成十八年 元旦

戌

〒 659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2006年

たとえば、ブータン中ひらひらとたなびいているダルシンがある。経を書いたこの布は風に翻るたびに経を読む効果を持つ。農業者として風を知り抜いたブータンの人たちは、あらゆる風の通り道にダルシンを立てる。思いがけぬ峠脇や河原に布が教えてくれる風の流れ。畠は当然だんだん畠である。傾斜を丹念に水平に刻み込んだ土地を静かに水が流れ、中央に集まって谷になる。家は総て農家だから、正面と入り口を谷に向け、すこし下がった場所に控えとしての仏塔をもつ。

「天と地が支配する世界の感動」宮脇檀より

日本の原風景と称される農村の風景より、民族衣装の人々の姿より、土（版築）と木の立派な農家（民家）より、ゾン（要塞）より、ラカン（仏教寺院）より、ゴンパ（僧院）より、なによりもブータンを感じたのが、緑のなかに翻るダルシンの群れでした。

謹賀新年

メコンデルタ向けの長距離バスはチョロンのバス発着場から出発する。バスの行き先は車体に書いてあるので、一目で分かる。バスが出る直前は、ちよつとした興奮がある。……デルタの奥に入るには、ミトの町に入らないで、手前を右へ曲がる。カイライ、カイベを過ぎる。バナナの大生産地だ。バックミトアンに着く。むかしはバスもトラックもフェリーで渡ったが、いまは長大橋がかかっていて、ティエンジャン河を渡る。ヴェトナム人は「メコン」とは呼ばない。中国読みだからだ。ティエンジャンは「表メコン」である。メコンは一本の河ではなく、たくさんの河に分かれて南シナ海にそそぐが、渡しがあつたバックミトアンからヴィンロンを抜け、カントに着くと、この河はハウジャン河、「裏メコン」である。

「ヴェトナム・歴史の旅」小倉貞男より

河沿いに境界を消すように佇む華奢な水上住宅。色あせた葦と銀色のトタンがかもし出す柔らかな風景のなかに、どうしても次代の感覚を感じてしまう僕なのだが……

平成十七年 元旦

酉

〒 659 0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2005年

メコンデルタ向けの長距離バスはチョロンのバス発着場から出発する。バスの行き先は車体に書いてあるので、一目で分かる。バスが出る直前は、ちよつとした興奮がある。……デルタの奥に入るには、ミトの町に入らないで、手前を右へ曲がる。カイライ、カイベを過ぎる。バナナの大生産地だ。バックミトアンに着く。むかしはバスもトラックもフェリーで渡ったが、いまは長大橋がかかっていて、ティエンジャン河を渡る。ヴェトナム人は「メコン」とは呼ばない。中国読みだからだ。ティエンジャンは「表メコン」である。メコンは一本の河ではなく、たくさんの河に分かれて南シナ海にそそぐが、渡しがあつたバックミトアンからヴィンロンを抜け、カントに着くと、この河はハウジャン河、「裏メコン」である。

「ヴェトナム・歴史の旅」小倉貞男より

河沿いに境界を消すように佇む華奢な水上住宅。色あせた葦と銀色のトタンがかもし出す柔らかな風景のなかに、どうしても次代の感覚を感じてしまう僕なのだが……

謹賀新年

シューシュー、音が聞こえそうなほど熱い日差しを浴びたマット・カラーの風景。ブドウの木がますますさかんに葉を生い茂らせ、若枝は支柱の列から列へと張り渡された針金にすばやくからみつき、下の地面をすっかり影でおおってしまう。その甲冑のような厚い群葉の下は、誰でも歩いてかまわない。……かぐわしい緑色の薄明かりの中で、おびただしい数の昆虫たちがそれぞれの仕事にはげんでいる。思わず目を見張るほどあざやかな黄色のクモがブドウのつるからつるへと機敏に糸をかけていたりする。……その深い静寂の中のあちこちに、なにかザワザワとうごめく気配を感じはじめる。性急に、それでいて、ひそやかに——まるでこの世のすべてがひたすら生長することだけに専念しているかのような気配。……ブドウたちはじゃまされたくないだろう。九月がくる前にやっておくことは、まだまだある。

「愛すべき北イタリアの隣人たち」ティム・パークスより

平成十六年 元旦

申

〒659-0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-23-5812 江川直樹

2004

シューシュー、音が聞こえそうなほど熱い日差しを浴びたマット・カラーの風景。ブドウの木がますますさかんに葉を生い茂らせ、若枝は支柱の列から列へと張り渡された針金にすばやくからみつき、下の地面をすっかり影でおおってしまう。その甲冑のような厚い群葉の下は、誰でも歩いてかまわない。……かぐわしい緑色の薄明かりの中で、おびただしい数の昆虫たちがそれぞれの仕事にはげんでいる。思わず目を見張るほどあざやかな黄色のクモがブドウのつるからつるへと機敏に糸をかけていたりする。……その深い静寂の中のあちこちに、なにかザワザワとうごめく気配を感じはじめる。性急に、それでいて、ひそやかに——まるでこの世のすべてがひたすら生長することだけに専念しているかのような気配。……ブドウたちはじゃまされたくないだろう。九月がくる前にやっておくことは、まだまだある。

「愛すべき北イタリアの隣人たち」ティム・パークスより

街と田舎の近さと時間の長さが織り込められた、北伊・ヴェネトの頑固な風景だった。

謹賀新年

赤レンガやカラフルなモルタル塗りの住宅街を道は湖の方へ曲がりくねって続いていた。どの家も窓ぎわに花鉢を並べ、広い芝生の庭に囲まれていた。手入れの行き届いた垣根や庭木、そして花壇が見えた。豊かな北欧の、落ち着いた暮らしが感じられた。……「十二歳の頃、あたしは太陽に憧れたの。長い冬が終わると、いつも太陽を眺めていたわ。夏の強い光が、ある日あたしの目を焼いてしまったの。その日から眼鏡が必要になったの。夏は、肌の色よりも髪の方が白いでしょ。光を浴びると、髪の毛はだんだんブラチナ色に輝いてくるの。冬になると肌が真っ白になって、髪の色は金色に変わってくるの。」アジアから来た男は、北欧女の髪、瞳、肌、湖や町の風景、樹木の緑や北国の溢れる光、さわやかな風に心を強く動かされた。

「あの夏フィンランドで」小野寺誠より

初秋の好天気すぎるほどのヘルシンキでした。現代計画研究所・大阪も二〇年を経過しました。皆様のご支援、ご厚情に感謝いたします。今後とも末永く、おつきあい下さいませ。

平成十五年 元旦

羊

〒659 0042 芦屋市緑町1-3-303 0797-2315812 江川直樹

2003年

赤レンガやカラフルなモルタル塗りの住宅街を道は湖の方へ曲がりくねって続いていた。どの家も窓ぎわに花鉢を並べ、広い芝生の庭に囲まれていた。手入れの行き届いた垣根や庭木、そして花壇が見えた。豊かな北欧の、落ち着いた暮らしが感じられた。……「十二歳の頃、あたしは太陽に憧れたの。長い冬が終わると、いつも太陽を眺めていたわ。夏の強い光が、ある日あたしの目を焼いてしまったの。その日から、眼鏡が必要になったの。夏は、肌の色よりも髪の方が白いでしょ。光を浴びると、髪の毛はだんだんブラチナ色に輝いてくるの。冬になると肌が真っ白になって、髪の色は金色に変わってくるの。」アジアから来た男は、北欧女の髪、瞳、肌、湖や町の風景、樹木の緑や北国の溢れる光、さわやかな風に心を強く動かされた。

「あの夏フィンランドで」小野寺誠より

初秋の好天気すぎるほどのヘルシンキでした。現代計画研究所・大阪も二〇年を経過しました。皆様のご支援、ご厚情に感謝いたします。今後とも末永く、おつきあい下さいませ。

2002年

こうして、ドイツの侵攻によってオーストリアの名が世界地図から消滅したとき、かつての首都をぐるりと周巡するリングシュトラッセでは、近代市民文化の最後の灯火が音もなくかき消されたのであった。堂々たる広さをもった環状通りは、戦車パレードの格好の舞台としてもっぱらナチスの将校に利用されたという。だが、ついその二十年前まで、この場所で、着飾った貴婦人たちが「コルソ」を楽しみ、騎乗の帝国士官がさっそうと並木を駆けぬけていたことなどは、かれらの脳裏をよぎりもしなかった。

「ウイーン・ブルジョアの時代から世紀末へ」山之内克子より

ロッシのガララテーゼ（モンテ・アミアータ）の集合住宅を見たくなくて、週末を利用してミラノへ行った帰り、飛行機の乗り継ぎを兼ねてウイーンに立ち寄った。一面雪景色の街中を歩きながら、感じられる時間の堆積が、とても心地よかった。

2001年

河をもう一回りすると、見よ、ちょうど嫉妬深い雲の合間からまばゆい太陽の光が差し込んで来るかのように水上都市の壮観が我々の驚嘆のまなざしの中に突然飛び込んでくるのだ。夜だった・・・しかし何万もの天体が岸から岸まで広い水面を照らし、バンクをいとおしんでいるのだ・・・それはちょうどおとぎの国のようだった・・・河の兩岸、見渡す限り、限らない灯りの連続であつた・・・小さな水上住宅がどれも2つかそれ以上の灯りをつけている・・・、それは私がかつて目にしたなかでもっとも印象深くもっとも美しい風景だった。

「水の神ナーガ」スメート・ジウムサイより

旧チャオプラヤー川（運河）沿いの水上住宅には、川に突き出るようにして、船着き場を兼ねたあずまやがある。ここに座って居ると、水面を渡って来る風がなんともいえないほど気持ち良い。泥のような土色の川と共生する水上集落は、奥深い両生文化の物語だ。

2000年

ベロ・オリゾンテからオニブス（バス）で山中へ、何もない赤土の道を走っていく。バスの乗客はインディオや黒人が多く……。三〇四十分走るとウジミナスの発掘現場が見えてくる……。そこからまた一時間半ばかり走ってオウロ・プレットに着く。十八世紀すでに栄えていて、宗教、文化、美術の中心地だったと言う町並みが、小高い丘にあるバス停から一望される。赤瓦の屋根、白い壁、教会の塔、それらがこまごまと山の斜面にへばりつき、急勾配の石畳をフォルクスワーゲンがあえぎあえぎ上がって来る。

「未来の国ブラジル」 本地真穂より

一六九六年にオウロ・プレット（ミナスジェライス）で金が発見された。その狭く、上り下りのはげしい街路、美しい建物、教会は、熱帯に移されたポルトガルの景観であるといわれるが、一日ちがいで見た広大なブラジリアの風景は、夢現の景観といえばよいのか。

1999年

路地は・・・絵のように美しい。長く続く曲がりくねった古びた壁を折れると思いがけなく木戸や小さな店が目飛び込んでくる。店は通りから少し引込んだところがあり、差し掛けたすだれの下で商いをしている。夜になって、ところどころに下げられたランプの光の瞬きをみていると、ときおり薄暗がりのなかを、この地方特有の服を一分の隙もなくまとったジャワ人が音もなく歩いていくのでなければ、思わず南欧の古い町にいたのではないかと錯覚しそうになる。

オランダの学者 ファン・モオクの描写より

ジョグジャカルタの南東約六キロ程のところにコタ・クデの町がある。ガングと呼ばれる細い路地が印象的だ。美しさと生活の音やにおいが同居している。文章は、『神々と生きる村 王宮の都市』のなかの、田原直樹さんの担当された章から引用させていた。いた。

1998年

ポルトフィーノの半島を過ぎると、海岸線は断崖絶壁がつづく。小さな入り江にへばりつくように、古い漁村が五つ、点在している。漁村に覆いかぶさるように迫る山の急斜面は、一面のブドウ畑だ。山を貫くトンネルとトンネルの間に、各駅停車しか止まらない小さな駅がある。・・・各駅停車で降りた駅は、ヴェルナツァ。小さな岬の上に、石積みの望楼が建ち、その下に色とりどりの五、六階建ての家々が、洗濯物をひるがえしながら、密集していた。・・・岬をまわると城砦の下に、黄色やピンクに塗られた建物群が並んでいた。ポルトヴェネレの漁港だ。

「イタリア小さいまち紀行」小谷明より

海鳥の巣箱のような家々がへばりつく、東リビエラの五つの漁村「チンクエ・テルレ」。イタリアというより地球を感じてしまった晩秋でした。

1997年

私は数え切れぬほどの時間をさまよい歩いて過ごした。あたかも、この街の脈所を押さえたいと無意識にも欲していたかのように。この街の雰囲気を感じ、それをつかみ取りたいと欲していたかのように。そしていつでも・・・この街は私をあたたく迎え入れてくれた。・・・多くの他の大都市とは異なり、アムステルダムには、小さな集落に固有の親愛の情、安心感が保たれている。それはおそらく、この街路が太がかりではないこと、曲がりくねった運河があること、水と地面が交互に繰り返しているからかもしれない。

「あのもうひとりの神の生きる場所」ジョセ・ヘンティス・ジ・ガリヴァーリヨより
ユトレヒトに足を伸ばして見たシュレーダー邸では、・建築・というものの持つすばらしい力、可能性をもまた、感じてしまったのです。街と建築はこれだからやめられない。